

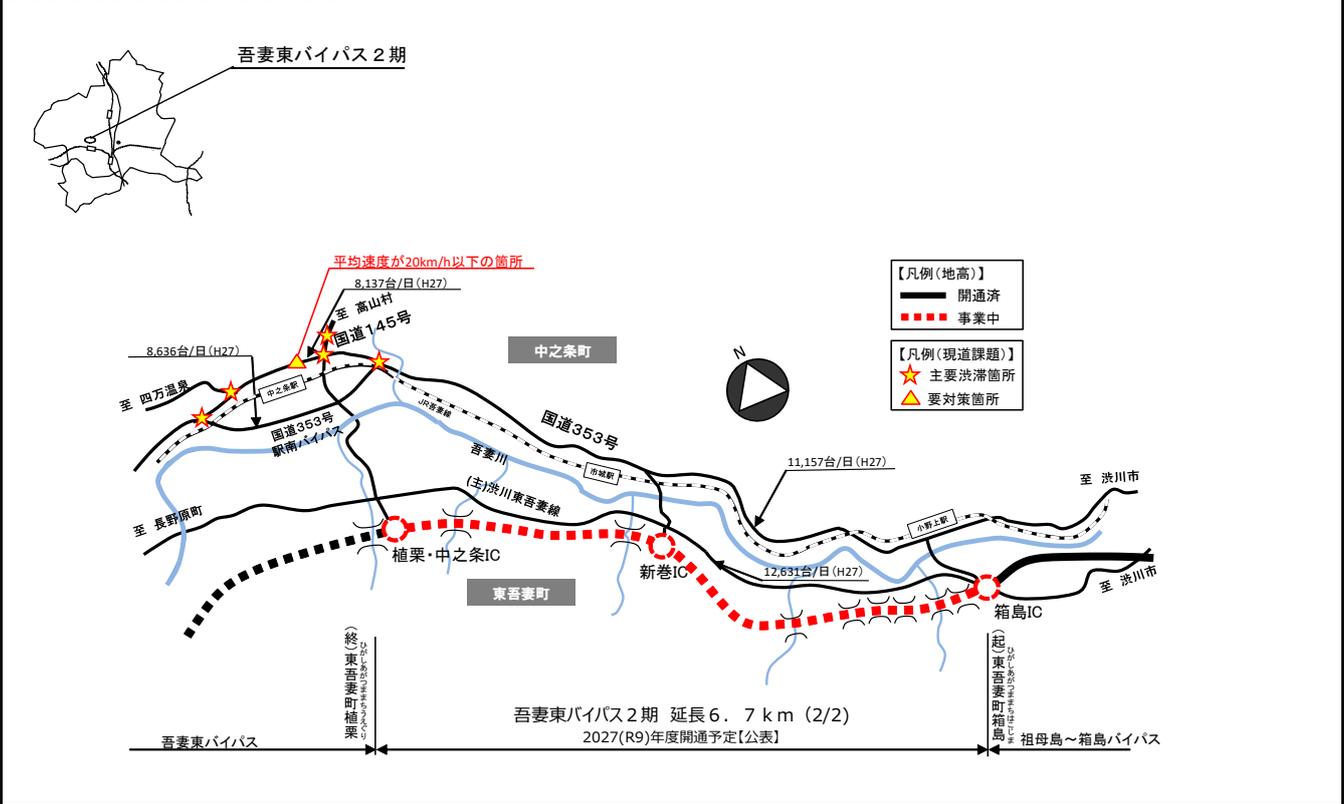
再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：前佛 和秀

事業名	地域高規格道路 <small>じょうしん じどうしゃどう</small> 上信自動車道 一般国道353号 <small>あがつまひがし</small> 吾妻東バイパス2期	事業	区分	一般国道	事業	主体	群馬県
起終点	自：群馬県吾妻郡東吾妻町箱島 <small>あがつまぐんひがしあがつまちはこしま</small> 至：群馬県吾妻郡東吾妻町植栗 <small>あがつまぐんひがしあがつまちうえぐり</small>			延長	6.7km		
事業概要 上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保IC付近から鳥居峠を經由し長野県側の上信越自動車道を結び、吾妻地域及び沼田・渋川地域集積圏と長野県の上田地域集積圏との連携強化を図るとともに、広域交流を促進する延長約80kmの地域高規格道路である。 一般国道353号吾妻東BP2期は上信自動車道の一部を構成する延長6.7kmの2車線道路である。							
H26年度事業化	都市計画決定なし		R2年度用地買収着手	R2年度工事着手			
全体事業費	180億円	事業進捗率	20%	供用済延長	-km		
計画交通量	11,300～13,200台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年	
	(事業全体) 1.4	(残事業)/(事業全体) 121/154億円		(残事業)/(事業全体) 226/226億円		令和2年	
	(残事業) 1.8	(事業費：113/147億円) (維持管理費：7.2/7.2億円)		(走行時間短縮便益：178/178億円) (走行経費減少便益：27/27億円) (交通事故減少便益：21/21億円)			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.6 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.7～2.1 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.4～1.6 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.7～2.1 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3～1.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.8～2.0 (事業期間±20%)							
事業の効果等 ・地域高規格道路「上信自動車道」の一部であり、吾妻地域の産業競争力の向上に寄与 ・災害に対する道路の信頼性が向上し、地域の防災力が強化されるほか、三次救急医療機関等へのアクセス向上が見込まれる ・草津温泉等の観光地へのアクセス向上が見込まれる							
関係する地方公共団体等の意見 ・渋川市をはじめとする3市4町2村の首長や議会議長等で構成される「上信自動車道建設促進期成同盟会」より、当該路線の整備促進の要望を受けている。							
事業評価監視委員会の意見 ・事業継続を妥当と認める。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成31年度に上信自動車道の一部区間である長野原嬭恋バイパス(L=8.5km)が新規事業化した。 ・令和2年6月7日に上信自動車道の一部区間である金井バイパス(L=1.0km)、川島バイパス(L=2.2km)、祖母島～箱島バイパス(L=4.0km)が全線供用した。							
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地進捗率37%、事業進捗率約20%							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・軟弱地盤対策等の検討やバイパス整備の影響を受ける既存の生活道路等の代替え施設の計画に期間を要したが、解決を図り令和9年度の全線開通を目指して事業を推進している。							
施設の構造や工法の変更等 ・他工事との工程調整により建設発生土の有効活用を行うなど、着実なコスト縮減に努める。							
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由 ・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性・重要性は変わらないと考えられる。							

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。